

# 歴史的景観の意義と保全活用に向けての 諸課題 — 真の先進国となるために

## 開催概要

恒例となった「観光文化セミナー」も6回目を迎えた。今回は当財団の機関誌『観光文化』182号にご寄稿いただいた新潟大学工学部准教授の岡崎篤行氏をお招きし、さらに詳しく内容をお話いただく機会となった。日本では2004年に「景観法」が制定され景観に対する意識が高まってきたものの、英米と比較してみるとはるかに遅れていることを事例やデータを交えて説明。美しい景観は観光の柱であり、歴史的景観・建築物を保全活用していくことの重要性を強調された。岡崎氏は地元新潟県内各地の景観計画策定にも参画され、各地の事例を映像を交えてご紹介されたが、新潟への認識を深める良い機会ともなった。

■ 担当者 外川宇八・渡邊サト江

■ 場 所 第一鉄鋼ビル B1F 会議室

■ 日 時 07年10月24日

■ 主 催 (財)日本交通公社

## プログラム

- |             |   |
|-------------|---|
| 16:30～18:00 | 歴史的景観の意義と保全活用に向けての諸課題—真の先進国となるために<br>講師：新潟大学工学部建設学科 准教授 岡崎篤行氏 |
| 18:00～19:30 | 懇親会   |



参加者数 37人